

# 人を育て、技術を磨いた45年 若い力を結集してコロナ禍を あっという間に吹き飛ばすぞ！



**西岡化建株式会社 代表取締役社長 西岡 若菜 (右) / 専務取締役 西岡 洋子 (左)**  
(大阪北ブロック/三島支部)

西岡化建(株)は防水工事・塗装工事・内装仕上げ工事・建築工事を4本の柱としている会社です。元バスガイドという異色な経歴のある西岡洋子専務と夫との二人三脚で人を育て技術を磨いた45年。それを受け継ぎコロナ禍を乗り越えていこうとする西岡若菜新社長。お二人に力強いお話を聞きました。

## 夫婦での創業

**専務:** 1975年に現会長の夫と職人、事務員の10名ほどで大手ゼネコンの防水塗装工事をする会社を立ち上げました。そのころ、職人には独特の気質がありなかなか定着しませんでした。夫は優しい人ですので、私が矢面に立つ場面は多かったです。いつも「人がいない」「人が集まる方法はないか」と悩み、解決策を見出すことができませんでした。1993年同友会に入会しました。会社から離れることができない忙しい日々を過ごしていたので、入会当初は同友会の例会や懇親会に参加することは息抜きのように思っていました。しかし、同友会で外国人研修生の制度や新卒採用の重要性を教わりました。研修生や新卒者を迎え入れるにあたり、私の頭の中にだけあった就業規則や社内ルールを整えていきました。2007年から12年間、何度も中国に足を運び、言葉の壁に悩みながら外国人研修生を採用しました。中国の人件費の高騰もあり、ベトナム人就業生(社員待遇)の採用も行いました。新卒採用は高卒(技術職)に始まり大卒(営業職)と、こちらも継続的に行っています。若手社員が増えるとともに、会社の雰囲気にも変化が出ました。また、同友会の環境経営部会で勉強し、その指導のもと、若手社員が中心となり2011年エコアクション21を取得しました。環境活動の取り組みを営業ツールとする工夫をしています。

## コロナ禍で

**専務:** 育ててきた社員のため、そして長女への事業承継のため、2019年12月隣接地に新社屋を竣工させました。そんな矢先にコロナ禍に見舞われました。2020年春の緊急事態宣言の影響で予定工事が延期・中止となりました。現場が生命線の当社ですので、テレワークですべてを消化するわけにはいきません。これからどうなるの？

長年の苦勞が吹っ飛んでしまうの？と、考えました。赤字化は免れないと思いましたが、長年にわたり築いた雇用と技術を守るために給付金や資金調達など素早くあらゆる手段を打ちました。11月に参加した訪日団での訪問先や報告者の力強い言葉は励みになりました。

## 新社長の意気込み

**社長:** 私は2006年の入社です。コロナ禍の2020年8月に社長に就任しました。前職がシステムエンジニアだったので、その技術を生かして自前でホームページを作り替えました。自社の強みを理解しているので、新規顧客を発掘していきます。また、眼を輝かせ技術革新に力を注いできた会長のおかげで「安心安全」がキーワードになる食品スーパーなどに信頼していただいている実績もあります。食品工場や医療品、病院関係の防食塗床などについてはFRPライニングに特化した付加価値を持っています。昔気質にありがちな「背中を見て学べ」ではなく若い職人への技術の伝承もでき始めています。女子社員が多くなったことも明るい社風を生み出しています。妹も専務から経理の役割を引き継いでいます。これらを「西岡化建」の強みにして、コロナ禍の苦勞を吹き飛ばしていきます。

## 日中経済交流研究会との思い出

2007年に初めて採用した中国人研修生が3年間の研修を終え10年に帰国しました。彼らから「上海万博に来てくださいよ」とうれしい便りが届きました。ちょうどその時、日中経済交流研究会の訪中国のスケジュールに上海万博が含まれているを見つけ、即座に申し込みました。数時間列車に揺られ上海まで来てくれた彼らと、万博を見学し、訪中国のメンバーと共に食事をしました。私の会社で学んだことを基礎に中国で頑張っている彼らとの時間は忘れられません。(専務)

(Zoom取材・文 日中経済交流研究会 広報委員会)